

顕微鏡の扱い方

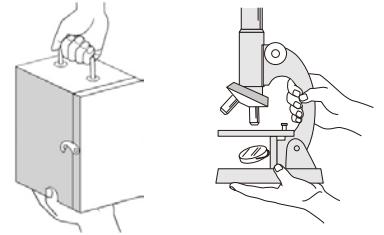
事故防止のために

関連単元

3. 植花から実へ
2. メダカのたんじょう
2. 植物のつくりとはたらき(6年)
3. ヒトや動物の体のつくりとはたらき(6年)

1 顕微鏡の運び方

- ・必ずケースの扉のフックを掛けて運ぶ。
- ・片方の手で取っ手を持ち、もう一方の手で底を支える。
- ・扉が手前にくるように持つ。
- ・ケースから取り出すときは、片手でアームをしっかり持ち、もう一方の手で鏡台の底を支える。



2 顕微鏡の使い方

①レンズを取り付けるときの注意

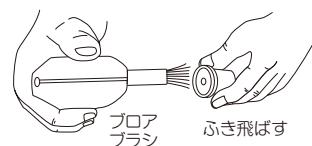
- ・対物レンズの上にはこりが入らないように、初めに接眼レンズをつけ、次に対物レンズをつける。
- ・接眼レンズを差し込むときは、ショックを与えないように静かに差し込む。
- ・対物レンズは片方の手の人差し指と中指ではさんで持ち、もう一方の手でレンズに指がさわらないように注意してレボルバーに取り付ける。

②ピンを合わせるときの注意

- ・接眼レンズをのぞきながら、反射鏡を動かして明るく見えるようにする。このとき、反射鏡には、絶対に直接日光を当てない。
- ・ステージの横から見ながら、対物レンズをプレパラートすれすれまで下げる。このとき、接眼レンズをのぞきながら下げるとき、下げすぎてプレパラートのみならず、対物レンズのレンズ部分が破損する恐れがある。
- ・対物レンズを上げながらピントを合わせる。

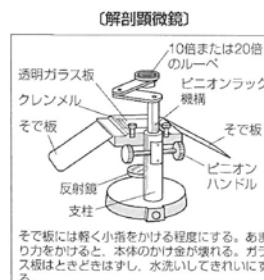
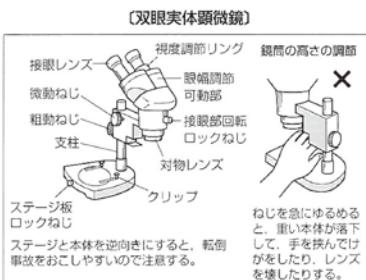
③レンズの手入れ

- ・ごみやほこりがついたときは、写真機用のプロアブラシでふき飛ばす。
- ・汚れがひどいときは、アルコールを少しつけたガーゼでふきとる。
- 水がついたときは、乾いたガーゼでふきとる。

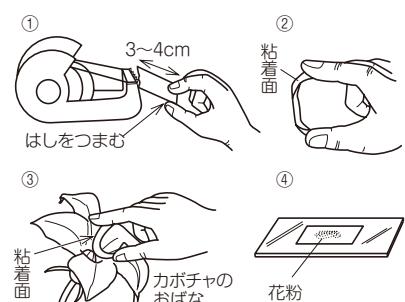


④プレパラートをつくるときの注意

- ・スライドガラスやカバーガラスに指紋をつけない。
- ・ガラス類は割れつけがをしやすいので気をつける。とくに、カバーガラスはうすくて割れやすいので注意して扱う。
- ・右図のように、カバーガラスを使わずにセロハンテープを使うこともできる。



力ボチャの花粉の観察

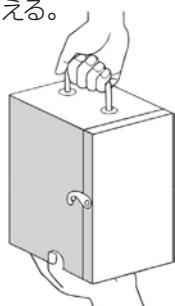


けんび鏡のあつかい方

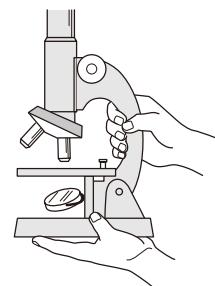
● けんび鏡を安全に使うために

1 けんび鏡の運び方

- ・ケースのとびらのフックをかけ、とびらが手前にくるように持つ。
- ・かた方の手で取っ手をしっかりと持ち、もう一方の手で底を支える。

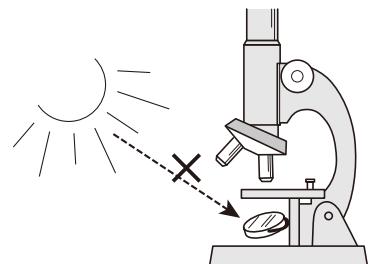


- ・ケースから取り出すときは、かた方の手でアームをしっかりとぎり、もう一方の手で鏡台の底を支える。



2 けんび鏡の使い方

- ・反しや鏡には、絶対に直接日光を当てない。
- ・ピントを合わせるときは、ステージの真横から見ながら、対物レンズをプレパラートすれすれまで近づけ、対物レンズを上げながらピントを合わせる。
- ・接眼レンズをのぞきながら近づけない。プレパラートがわれ、対物レンズのレンズ部分がこわれることがある。
- ・レンズに水を付けないように気をつける。
(カビが発生することがある)



3 プレパラートの作り方

- ・カバーガラスは、右の図のようにピンセットで持つ。指ではさんで強く持つとわれて、指をけがすることがある。
⇒ カバーガラスはうすくてわれやすいので、注意してあつかう。
- ・スライドガラスやカバーガラスには、油やごみがついて見えにくくなるので指もんを付けないようにふちをつまんであつかう。

